

# 奈良県立医科大学 学報

July  
2005

vol. 13

## CONTENTS

開学60周年記念式典等の開催	1
ホオジロ通信	2
医学教育シリーズ4	3
研究紹介(組換えDNA実験施設)	4
研究紹介(泌尿器科学教室)	5
新規外来等の開設(女性専用外来、外来化学療法室)	6~7
看護部から	7
平成17年度科学研究費補助金の決定	8~9
中島佐一学術研究奨励賞受賞式及び受賞講演会/ チェンマイ大学との交流報告	10
就任挨拶/オープンキャンパスの実施	11
レポート	12~13
平成17年度前期公開講座の開催について	13
公立大学法人化に向けて①	14
厳糧会館/奈良栗田書店の紹介	15
アセアン諸国青年との国際交流について/国家試験結果/ 下ツ道	16



早石先生(スクリーン左側)と裏出先生

## 開学60周年記念式典等の開催

本学は、昭和20年4月1日に奈良県立医学専門学校として設立され、平成16年度末で満60年を迎え、去る5月15日に「開学60周年記念事業」が実施されました。

60周年にあわせて交流施設として整備された「厳糧(いつかし)会館」のテープカットの終了後、大講堂において開学60周年記念式典が開催されました。

柿本県知事をはじめ、各方面からの来賓の方々のご祝辞をいただいた後、体調不良のためおいでいただけなかった大阪バイオサイエンス研究所名誉所長 早石修先生に代わり、長年にわたり早石先生と共に研究をしてこられた裏出良博先生(大阪バイオサイエンス研究所分子行動生物学部門研究部長)から「酸素添加酵素の研究—回顧と展望」と題して特別講演をしていただきました。

早石先生は、戦後研究資金も器材もない中で出来ることは何かと考え、培養した土壌細菌から先生のご研究の柱となるピロカテラーゼを発見し、新しいトリプトファン代謝経路を見出されました。85歳になられる現在も脳神経化学分野にまでご自身の研究を発展されていることが紹介されました。

殊に、早石先生が基礎研究の道に進まれるきっかけになった「握り飯より柿の種」<sup>\*</sup>のお言葉は、研究とは何か、教育とは何か、医療とは何かを改めて考えさせられるものでした。

<sup>\*</sup>「握り飯より柿の種」… 近視眼的に物事を決断せず、将来を見据えて考えること。



## 『医療に経済を合わせる』

学長 吉田 修

わたしは最近まで、経済学というものに余り興味をもったことはなかった。「経済学とは」の問いに「経済学とは経済学者がやっていることだ」と定義した人（ジョン・ヒックス）がいると聞いてあきれたものである。ところが最近、宇沢弘文先生（東大名誉教授）の文、「ヒポクラテスの誓いと社会的共通資本としての医療」（日医雑誌134巻1号28-33頁）を読んだのがきっかけで、経済学の入門書など読んでこの考えがすっかり変り、わたしの不明を恥じている。

宇沢先生は「医療を経済に合わせるのではなく、経済を医療に合わせるのが、社会的共通資本としての医療を考えるときの基本的視点である」と述べている。この社会的共通資本という概念を理解しなければと思い、少しずつ教科書的な本を読みはじめたが、どんどん深みに嵌ってしまった。アダム・スミスの「富国論」にはじまり、リカード、マルサス、そしてマルクス、ワルラス、ヒックス、ヴェルブレン、ケインズに至り、ロビンソンまで理解し、反ケインズ経済学から現代経済学まで読まなければ、社会的共通資本の概念の導入の必然性が理解できないからである。

「各人が、その多様な夢とアスピレーションにふさわしい職業に就き、それぞれの私的・社会的貢献にふさわしい所得を得て、幸福で安定的な家庭を営み、安らかで、文化的水準の高い一生を送ることが出来るような」社会を実現するための経済制度と、その具現化のために導き出した考え方が、社会的共通資本であり、自然環境、社会的インフラストラクチャー、制度資本の3つの範疇に分け、教育、医療、金融、司法などの制度を広い意味の資本と考えようとするものである。

「供給される医療サービスが、医学的な観点から最適なものであり、かつ社会的な観点から公正で、経済的な観点から効率的に配分されているとすれば、国民医療費の割合が高ければ高いほど、単に経済的観点からも望ましいものであるとあってよい」と言い切っておられる（傍点筆者）。われわれは「国民総生産にたいする医療費が高ければ高いほど望ましい」という文のみを取り上げてはならない。「医学的な観点から最適なものであり、かつ社会的な観点から公正で、経済的な観点から効率的に配分される」という厳しい条件がついていることを忘れてはならない。

わたしは長年医学教育に携わり、またかつて医療に従事した者である。「医療や教育に経済を合わせるべきだ」などという、我田引水ととられるかもしれないがそうではない。全てのことに経済を最優先し、何でもかんでも市場原理、自由競争原理を導入しようとするのは危険だと思うのである。

最近のこの国は、腰を落ち着けてじっくりやるという美風が廃れてしまったような気がしてならない。教育とか医療の改革は、5年先、10年先、いや30年くらい先のことを考えてじっくりやらねば、千歳に悔いを残すことになりかねない。つい昨年始めた新臨床研修医制度についても、また国立大学法人化にしても、わずか一年しか経っていないのに、廃止を含めた抜本的改革を検討するとか、国立大学法人化の一年後の評価とかいわれるがまったく見識を疑わざるを得ない。



ホオジロ

### 【ホオジロ通信のいわれ】

ホオジロの鳴き声は「イッピツケイジョウツカマツリソウロウ（一筆啓上仕り候）」と聞こえるといわれます。本学教職員および関係者の皆様に一筆啓上仕るという意味で、この欄をホオジロ通信と名付けました。





シリーズ  
4

## よき医療人の養成に望まれる教育

教育開発センター 教授 森田 孝夫

吉田学長はW.Oslerのことは「医師の養成に必要な教育はScience, Art, Humanityの教育である」をよく引用されます。そこで今年の新入生の特別講義を担当させていただいた時に学生諸君に次の質問をしてみました。「医師に必要なScience, Art, Humanityとはなにか?」、「将来、医師になったとき患者さんは皆さんのどこにScience, Art, Humanityを感じると思うか」と。適当にグループを作り、学生同士での約15分間のディスカッションの後に発表してもらいました。Scienceについては「医師に求められるScienceとは、医学的知識を身につけ論理的に思考することで、患者さんに病気や治療の話をするときに現れる」という意見にまとまりました。Artについては「感銘を受けるすばらしい医療技術のことで、見事な手術などがそれに当たる。美容整形では分かりやすいかもしれない」などができました。Humanityについては「人間性のことだから、患者さんと話している時に患者さんが感じるものではないか」、「Artは行動として目に見えるが、Humanityは目に見えないのでは」など奥の深い見解が出てくるので驚きました。

さて、教育の目標については教育学者Bloomが教育目標分類学Taxonomyを提唱しています。教育目標には認知領域(知識)、精神運動領域(技能)、情意領域(態度)の三つの領域があり、それぞれは学習の深さからさらに三つの段階に分かれるというものです。

知識の場合には、「想起」、「解釈」、「問題解決」の各レベルがあり、この順に学習が深まっていくといえます。例えば、「心電図」という言葉を聞いたときに何のことか分かるのが「想起」のレベルで、「心電図の波形」から狭心症などを診断するのが「解釈」レベル、さらに「心電図の波形から治療法を決定する」など問題解決をおこなうのが「問題解決」レベルです。医師国家試験では問題解決レベルの設問が全体の60%以上を占めるそうです。

技能の場合には、「模倣」、「コントロール」、「自動化」の順に学習が深まっていきます。例えば外科でおこなう「縫合」の場合、最初は「みようみまね」で皮膚縫合を行うのですが、次第に、手早く針を進めたり、炎症や浮腫がある脆い組織を愛護的に扱ったりなど技術を「コントロール」することを覚え、さらに進むと「意識することなく自動的に」にさまざまな状況に対処できるようになっていくのです。外科の先生方は実感されていると思いますが、この最後の段階は考えることなく、手だけが動いているといった状況です。共用試験で実施される客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination, OSCE)は「模倣」レベルの試験ということです。

態度の場合には、「受け入れ」、「反応」、「内面化」といった順に学習が深まるといいますが、医師としての態度を教育しようとしたとき、何をどう受け入れたら態度の第一段階に達し、何にどう反応したら第二段階で、さらにどうなったら第三段階(内面化)なのかが分かっていないのが現状です。医の倫理を知識として教えることはできますがそれはあくまでも知識の教育になります。

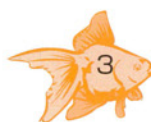
態度は行動を起こす準備状態であり、結果として起こった行動からそのひとの態度を推測するのだという考え方もあります。つまり、態度の教育では目標設定も教育方法も評価もとても難しいのです。唯一、分かっていることは模範となる医療人を身近に見せることです。この模範となる人を「ロールモデル」といいます。医学教育に新しい教育手法やさまざまな工夫が取り入れられ、知識、技能の教育システムはかなり完成度の高いものとなってきていますが、態度の教育についてはまだ暗中模索です。

医療事故、医療安全に関連して医師の態度教育の重要性が叫ばれている現在、態度教育は医学教育に残された最後の大きな課題ともいえます。奈良県立医科大学として胸を張って世に医療人を送り出せるような「態度教育のシステム」を皆さんと共に築いていきたいと思えます。

教育目標の分類 (Taxonomy)

学習の深度	認知領域(知識)	情意領域(態度・習慣)	精神運動領域(技能)
第一段階	想起	受け入れ	模倣
第二段階	解釈	反応	コントロール
第三段階	問題解決	内面化	自動化

Bloom(1956)のオリジナルをGuilbertにより単純化されたもの





# 有機アニオントランスポーター OATP の解析

組換えDNA実験施設 助教授 杉浦 重樹

トランスポーターは細胞膜に局在し、細胞内に物質を取り込んだり、あるいは逆に細胞外に物質を排出する蛋白の総称です。近年遺伝子クローニングが相次ぎ、現在までに溶質トランスポーター (solute carrier superfamily : SLC) だけで43ファミリー328遺伝子に達しています。中にはOCTN2のように、その遺伝子変異が全身性カルニチン欠乏症を引き起こすことが分かっているものもありますが、その生理的な役割が明らかになっているものは、ほんの一部に過ぎません。

有機アニオントランスポーター OATP (Organic anion transporting polypeptide) はSLC21Aファミリーに属し、ステロイドホルモン抱合代謝物、甲状腺ホルモン、胆汁酸およびビリルビンなどの内因性物質をはじめ pravastatin, benzylpenicillin, digoxin などの外来性物質を基質とします。表に示したようにOATPは広範囲な組織に発現しており、以下のような働きを通じ生体の機能維持に重要な役割を果たしていると考えられています。

- ①血液脳関門を介した甲状腺ホルモン類の中樞神経系への取り込み
- ②血中からの胆汁酸や薬物の肝臓への取り込み
- ③炎症メディエーター（プロスタグランジンやロイコトリエンなど）の除去
- ④異物の胆汁や尿中への排泄

OATPの研究は、これまで主に肝臓での薬物輸送に重点が置かれてきました。ヒトではOATP-B, OATP-C, OATP8の三者が肝細胞血管側で発現しており、有機アニオン化合物の肝取り込みに関していると考えられています。これに関して我々は、OATP-B, OATP-C, OATP8のうちOATP-Cのみがirinotecanの活性代謝産物であるSN-38を輸送すること、さらにOATP-Cの遺伝子多型がirinotecanやpravastatinの薬効や毒性についての個人差に関与している可能性があることを報告しました。

現在までにヒト、ラット、マウスで様々なOATPメンバーが見つっていますが、種間のオルソログは未だに明確ではないため、動物を用いた *in vivo* の結果をヒトにあてはめることはなかなかできません。また各OATPメンバーに特異的な阻害剤がないことに加え、良い抗体もほとんど作製されていません。そこでRNAiによるノックダウンを利用し、特定のメンバーの発現が低下したヒト培養細胞株の分離を試みると同時に、それぞれの中和モノクローナル抗体を作製し、ヒトにおける各メンバーの生理的役割を明らかにしようとしています。

OATPの機能解析については東京理科大学・薬学部・生物薬剤学研究室との、またモノクローナル抗体作製については本学ラジオアイソトープ実験施設との共同研究です。

ヒト有機アニオントランスポーターファミリー

遺伝子記号	名前	発現部位および主な基質
SLCO1A2	OATP-A	<b>脳、肝臓</b> 胆汁酸、ステロイド抱合体、甲状腺ホルモン
SLCO1B1	OATP-C, LST-1	<b>肝臓</b> 胆汁酸、ステロイド抱合体、甲状腺ホルモン
SLCO1B3	OATP-8, LST-2	<b>肝臓</b> 胆汁酸、ジゴキシン、甲状腺ホルモン、CCK-8
SLCO1C1	OATP-F	<b>脳、精巣</b> ステロイド抱合体、甲状腺ホルモン
SLCO2A1	PGT	<b>広範</b> エイコサノイド (PG <sub>3</sub> , LT <sub>3</sub> , TxB <sub>2</sub> )
SLCO2B1	OATP-B	<b>肝臓、小腸、胎盤、腎臓</b> 硫酸抱合ステロイド
SLCO3A1	OATP-D	<b>広範</b> エイコサノイド (PGE <sub>1</sub> , PGE <sub>2</sub> , PGF <sub>2</sub> α)
SLCO4A1	OATP-E	<b>広範</b> タウロコール酸、甲状腺ホルモン
SLCO4C1	OATP-R	<b>腎臓</b> ジゴキシン、甲状腺ホルモン
SLCO5A1	OATP-J	? ?
SLCO6A1	GST, OATP-I	<b>精巣</b> ?





# 健常人を対象としたイソフラボン介入試験

助手 田中 雅博

前立腺癌は米国男性において癌死第二位と生命を脅かす疾患の一つである。近年、日本においても人口の高齢化や食生活の欧米化に伴い頻度は増加してきている。大豆蛋白は植物エストロゲン作用を有するイソフラボン (Daidzein, Genistein) を含有し、前立腺細胞の増殖を抑制する。疫学的調査により欧米人の前立腺癌罹患率は日本・韓国人に比べて高く、欧米人の血中イソフラボン濃度は日本・韓国人に比べて有意に低値である。そこで、アジアにおける最近の前立腺癌の増加は、食生活の欧米化やイソフラボン代謝機構の人種差がその背景にあると考えられる。

そこで、10~50歳代の健常ボランティアを対象に大豆蛋白摂取量とDaidzein、Genistein、およびDaidzein体内代謝物で強いanti-androgen作用を有するEquolの血中濃度を測定し、世代間の相違を検討した結果、若年者ではイソフラボン濃度が中高年者よりも有意に低下しており、これらの年齢層が中高年になる数十年後には、日本における前立腺癌は著しく増加するのではないかと危惧されている。イソフラボンに前立腺癌に対する予防効果が認められれば、我が国の将来における前立腺癌の増加に歯止めがかかる可能性が示唆される。

前回の研究結果にて、健常人の血中イソフラボン濃度を測定し、Equol producerとnon Equol producerを識別することができたが、このEquol producerとnon Equol producerの二つの群において、食生活は通常と変化させずに大豆イソフラボン錠 (イソフラボン30mg/5錠、60mg/10錠) を投与し、それぞれの投与前後における血中および尿中のDaidzein、Genistein、Equolの濃度にどのような変化が生じるかを検討する (Figure 1)。さらに、10代、20代の若年者を対象として、試験期間中は個々人の食生活をできるだけ同じ食事内容とし、大豆イソフラボン錠 (イソフラボン30mg/5錠、60mg/10錠) を投与し、投与前後において血中および尿中におけるDaidzein、Genistein、Equolの濃度にどのような変化が生じるか、大豆イソフラボン錠を投与することによって若年者におけるEquol産生が可能となるかを検討する (Figure 2)。

Figure 1

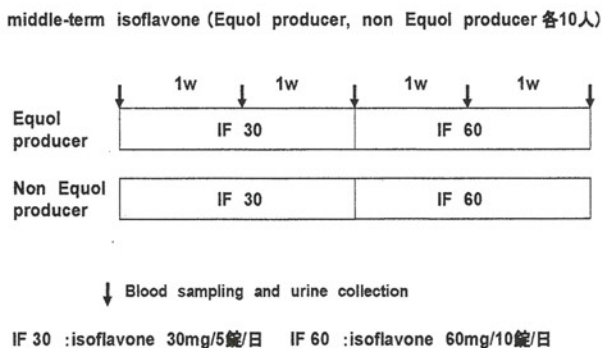
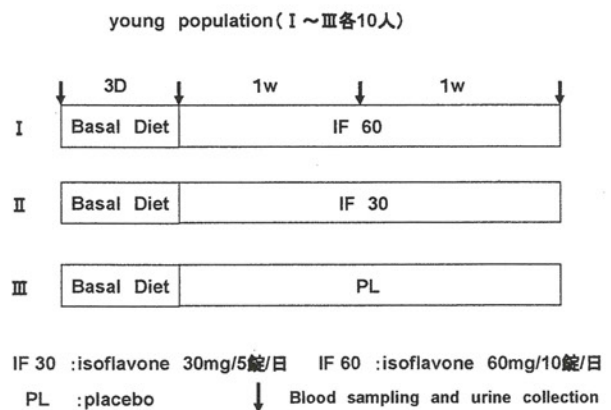


Figure 2



血中・尿中イソフラボンの測定は、寺本ら (健康・栄養食品研究,3,1,2000) の方法に準じてHPLC法にて行った。現在、当教室ではPTEN遺伝子ノックアウトマウスにおける前立腺癌の多段階発癌モデルを作成中であり、イソフラボンを用いた動物実験での発癌抑制を検討していく予定である。





## 女性専用外来

女性の身体や健康に対する悩みが複雑化する中で、女性特有の心身の悩みを女性の医師に相談したいという切実な声に応えられるようにと女性を専門とした外来を設置する動きが全国的に広まっています。本県においても、かねてより各方面から当院に設置の強い要望がありました。この度、本学で教鞭を執られ、産婦人科医としても活躍されておられる島本先生のご協力を得て、4月に「女性専用外来」を開設しました。



女性専用外来診察室にて

現在、診察は電話による予約制で、毎週月曜日の午後2時から4時30分まで行っています。開設以来、多くの県民の方からのお問い合わせをいただき、3か月先まで予約が入っている状況ですが、そのようにニーズの高い反面、今は島本先生一人で奮闘いただいている状況であり、今後、診察日や診察時間を増やすためには、新たな女性医師の協力が不可欠です。有為の女性医師の方の協力を切にお待ちいたしております。

## 女性専用外来の紹介

臨床教授 島本 郁子

4月から新設された女性専用外来を担当させていただくことになりました。当外来では、以下の5つの視点から女性の健康問題に関する多様なニーズに柔軟に対応していきます。

第一に、女性の健康管理をReproductive Health and Rightsの概念に基づいて行います。妊娠・出産期だけに限らず、思春期から高齢期までの各ステージで直面する様々な健康課題に適切に対応し、生涯を通じた女性のヘルスプロモーションを推進します。第二に、Gender specific Medicineの概念に基づき、性差による疾患の罹患率、検査値、薬理学的効果等の違いを考慮した医療を行います。第三に、専門的治療の必要性を的確に判断し、各科と適切に連携していきます。第四に、女性患者の訴えを十分に時間をかけて受け止め、満足度の高い診療を行います。第五に、診療を通じて女性専用外来を担当する医師の育成にも努めていきます。

女性専用外来では各診療科に関わる疾患を扱うこととなりますので、皆様のご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 外来化学療法室

抗ガン剤治療は、患者さんのQOL向上のため、副作用を低減する方法により外来で実施されることが多くなってきております。このような患者さんのため、本学附属病院でも、旧救急棟のICUスペースを活用して「外来化学療法室」を開設しました。



テレビを見ながらの点滴



## 外来化学療法室の紹介

総合医療学 教授 中村 忍

平成14年度から一定の基準を満たした治療室で外来化学療法を行う際に、新たに「外来化学療法加算」が保険請求できるようになりました。これを受けて本院でも外来化学療法室の整備が進められ、旧高度救命救急センターを改装して治療室が完成し、17年4月から運用を開始しています。

治療室には静かな音楽が流れ、成人用10台のリクライニングシートがゆったりと並んでいます。さらに小児3人用の部屋を設けてあり、遊びながら治療を受けられます。シートごとにテレビが設置され、ヘッドフォンを用いて観ることができます。スタッフは使用する科からの医師、2名の看護師および3名の薬剤師です。

「静かで大変落ち着いて治療ができた」「これまでは早く終わらないかとジッと点滴を眺めていたが、ここではいつの間にか治療が終了している」「吐き気などの副作用が出なくなった」など、思っていた以上に患者さんの評判は良好です。安全性と快適性に特に配慮し、一人でも多くの患者さんが安心して外来で化学療法を受けられるように、スタッフ一同努力しています。

## 看護部から

### 褥瘡対策実務委員会の活動報告

看護副部長 池田 映子

褥瘡予防ケアは、看護の質の保証に欠かせないものの一つですが、当院でも平成14年に褥瘡対策未実施減算を受けて、皮膚科医師を委員長とする褥瘡対策チームが発足しました。看護部では、そのワーキンググループとしてWOC研修を終了した看護師をリーダーとし、各病棟1～2名のリンクナーからなる看護部実務委員会を立ち上げ、2年半が経過しました。

その間、自立度判定表や診療計画書の作成、褥瘡予防のための看護基準や手順の作成、エアマット等の褥瘡予防用品の配置など、褥瘡をつくらない・憎悪させないことを目標に取り組んでまいりました。

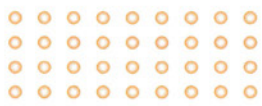
当院の診療計画書提出数に対する褥瘡患者の割合は約10%で、ICUや神経内科病棟、消化器外科病棟に比較的多く認められておりますが、平成16年度から褥瘡回診を実施することにより、褥瘡対策チームとディスカッションしながら、患者1人1人に対するケアを検証しています。その結果、適切な除圧や局所のケア方法、体位変換や移動のさせ方などを指導することにより、褥瘡の予防や改善に成果をあげており、ポケット形成や感染を伴う重度の褥瘡は発生しておりません。

褥瘡を予防することは、看護の質を維持し高めるのみではなく、経済効果を生み、ひいては病院経営に貢献することになると考えております。

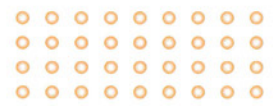
今後も、実務委員会として研鑽を積みながら褥瘡回診を充実させ、各所属へ褥瘡予防や改善のための新しい知識や褥瘡予防用品・ドレッシング材などの情報を発信し、褥瘡を減少させることを目標に取り組んでいきたいと考えています。







# 平成17年度 科学研究費補助金の決定



(総務課 研究支援室)

平成17年度の文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金が次の通り決定されました。

件数 101件 金額 198,840千円 (間接経費を含む)  
(89件) (183,900千円) ( ) 内は平成16年度

研究種目	所 属	職	氏 名	研 究 課 題	研究期間
特定領域研究	第一解剖学	講師	秦野 修	未分化性腺の形成の分子機構と性分化との関連	17~18
基盤研究A	生物学	教授	大西 武雄	シグナル伝達分子を標的とした放射線誘導アポトーシスの制御	17~19
基盤研究B	小児科学	講師	杉本 充彦	生理的血流下での血栓形成メカニズムの解明	15~17
基盤研究B	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	皮下における肝臓器新生の試み	15~17
基盤研究B	耳鼻咽喉科学	教授	細井 裕司	最重度難聴者用補聴システム開発のための超音波聴覚の応用研究	15~17
基盤研究B	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔癌における放射線・化学・温熱療法施行後のアポトーシス関連遺伝子発現応答	15~17
基盤研究B	病理病態学	教授	小西 登	ヒト前立腺癌における新規遺伝子PCA-1の同定と応用に関する研究	16~17
基盤研究B	第一内科学	教授	斎藤 能彦	NRSF/NRSE系による転写制御機構の破綻と慢性心不全発症・進行機序の解明	16~17
基盤研究B	第二生理学	教授	高木 都	胚性幹細胞から分化誘導した腸管のペースメーカー制御機構を構築する	17~18
基盤研究B	第二生理学	助教授	清水 壽一郎	心筋アクチンミオシン・クロスブリッジのナノ挙動から見た心筋障害の病態生理学的解析	17~19
基盤研究B	化学	教授	大崎 茂芳	新素材としての蜘蛛の糸の紫外線に対する防御システムの研究	17~18
基盤研究B	小児科学	教授	吉岡 章	第VIII因子/VWF複合体の機能制御に基づく新しい抗血栓症戦略	17~19
基盤研究C	整形外科	教授	高倉 義典	再生医療技術を応用した人工関節の固着性に関する実験的研究	14~17
基盤研究C	病理診断学	講師	吉川 隆章	骨髄間葉系幹細胞による骨および皮膚の再生治療研究	15~17
基盤研究C	第一解剖学	講師	秦野 修	副腎皮質と生殖腺の共通原基の分化と組織形成の分子機構	15~17
基盤研究C	第三内科学	教授	福井 博	重症肝障害における多臓器不全発現と生体内各種マクロファージ機能	15~17
基盤研究C	輸血部	教授	藤村 吉博	多彩表現型血栓症を示すVWF特異的切断酵素の活性低下の病態解析	15~17
基盤研究C	消化器・総合外科学	助手	高 濟峯	進行肝細胞癌治療を目的としたドナー骨髄造血幹細胞ミト移植併用生体部分肝移植	15~17
基盤研究C	整形外科	講師	富田 恭治	骨髄間葉系幹細胞を用いた血管柄付きハイブリッド人工骨の開発	15~17
基盤研究C	麻酔科学	教授	古家 仁	脊髄虚血に対する保護物質としてのデルタオピオイドの基礎的研究	15~18
基盤研究C	第一生理学	講師	和田 佳郎	動物視力の向上を目指した頭部一眼球共同運動の戦略	16~17
基盤研究C	第一内科学	助教授	金内 雅夫	2型糖尿病のより広範な一次予防に向けての地域啓発型モデル事業の展開	16~18
基盤研究C	第一生理学	講師	豊田 ふみよ	性フェロモンの作用機構に関する研究	16~17
基盤研究C	薬理学	教授	吉栖 正典	糖尿病性微小血管障害での新規MAPキナーゼ、BMK1の生理的役割の解明と分子創薬	16~17
基盤研究C	輸血部	助手	松本 雅則	血栓性微小血管障害症での高度腎機能障害の成因としてのADAMTS-13解析	16~18
基盤研究C	皮膚科学	教授	宮川 幸子	天疱瘡における発症感受性遺伝子候補領域における新規SNPの同定	16~17
基盤研究C	皮膚科学	講師	新関 寛徳	紫外線による免疫抑制効果におけるTLR4の役割	16~17
基盤研究C	皮膚科学	助教授	浅田 秀夫	蚊アレルギーにおけるEBウイルス再活性化機構およびNK細胞の発癌機構の研究	16~17
基盤研究C	皮膚科学	講師	小林 信彦	DNA修復欠損トリコチオディストロフィーはいかにして紫外線発癌を回避するのか?	16~17
基盤研究C	精神医学	教授	岸本 年史	低線量放射線による中枢神経系細胞の遺伝子損傷修復についての研究	16~17
基盤研究C	生物学	助教授	大西 健	RNA interferenceによるヒト癌細胞の放射線感受性の増感	16~17
基盤研究C	放射線医学	教授	吉川 公彦	大動脈瘤ステントグラフト治療：エンドリークが瘤内圧・瘤径に及ぼす影響に関する研究	16~17
基盤研究C	消化器・総合外科学	助手	大橋 一夫	生体内における立体的肝組織構築の試みとその治療効果の検討	16~17
基盤研究C	消化器・総合外科学	助教授	久永 倫聖	RECK/MMP-9balanceによる消化器癌悪性度判断のパラダイムシフト	16~17
基盤研究C	消化器・総合外科学	助手	庄 雅之	腫瘍内間質を標的とした機能抗体作製による新たな癌治療	16~18
基盤研究C	胸部・心臓血管外科学	助手	吉川 義朗	マウスの血液交差灌流実験 遺伝子導入治療後の不全心に対する心機能評価	16~18
基盤研究C	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	心筋梗塞後の不全心におけるReg遺伝子発現の機能的意義の解明	16~17
基盤研究C	脳神経外科学	講師	中瀬 裕之	脊髄損傷に対する再生治療-胚性幹 (ES) 細胞を用いた基礎的研究	16~18
基盤研究C	麻酔科学	助手	井上 聡己	脳虚血に対する保護物質としてのデルタオピオイドの基礎的研究	16~19
基盤研究C	耳鼻咽喉科学	助教授	家根 旦有	頭頸部癌の化学療法における分子標的薬を用いた増感効果の検討	16~17
基盤研究C	耳鼻咽喉科学	講師	山中 敏彰	前庭神経核における虚血性神経細胞障害とその可塑性	16~18
基盤研究C	眼科学	講師	松浦 豊明	分子設計を行ったハイドロゲルによる人工硝子体の開発	16~17
基盤研究C	口腔外科学	講師	山本 一彦	シクロオキシゲナーゼ2インヒビターによる口腔癌の化学予防に関する実験的研究	16~17
基盤研究C	第二内科学	助教授	濱田 薫	大気汚染粉塵が気管支喘息発症要因として次世代におよぼす影響についての研究	16~17
基盤研究C	総合医療学	教授	中村 忍	超音波の分子標的治療増強効果に関する基礎的研究	17~18
基盤研究C	保健体育	講師	石指 宏通	スポーツ活動時における血栓形成の発生機序の解明	17~18
基盤研究C	先端研 (R1)	助教授	森 俊雄	エストロゲン補充治療による女性がん発症リスク上昇に対するDNA付加体の役割	17~18





研究種目	所 属	職	氏 名	研 究 課 題	研究期間
基盤研究C	哲学(看護)	講師	池辺 寧	ハイデガー哲学における他者論の可能性と看護理論への応用についての研究	17~19
基盤研究C	病理病態学	講師	中村 光利	組織多様性を示す脳神経膠腫におけるgenotypeと治療反応性に関する研究	17~18
基盤研究C	公衆衛生学	講師	斉藤 功	耐糖能異常が及ぼす血管内皮機能障害とその修飾要因に関する疫学的研究: 明日香村研究	17~19
基盤研究C	第三内科学	助手	吉治 仁志	血管新生制御に基づく肝癌・肝線維化の個別化医療: 遺伝子診断による最適化の試み	17~19
基盤研究C	第三内科学	助手	小嶋 秀之	胆汁うっ滞におけるredixinの役割	17~18
基盤研究C	第三内科学	講師	植村 正人	ADAMTS13の解析と重症肝疾患における微小循環障害の発生機序の解明	17~19
基盤研究C	第一内科学	講師	上村 史朗	心筋梗塞の治療機転に関わる胎盤成長因子の作用機序の解明と新たな治療法の開発	17~18
基盤研究C	第一内科学	講師	岩野 正之	HIF-1 $\alpha$ の発現抑制による腎間質線維化の治療戦略	17~18
基盤研究C	小児科学	助教授	嶋 緑倫	凝固波形解析による血液凝固機能評価に関する研究	17~19
基盤研究C	周産期医療センター	教授	高橋 幸博	新生児の血栓症の病因・病態の解明と治療法の開発	17~18
基盤研究C	精神医学	講師	中川 康司	ナラティブアプローチによる痴呆性高齢者介護家族の介護負担感の軽減に関する研究	17~18
基盤研究C	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	p53非依存症アポトーシス、非アポトーシス型プログラム細胞死と細胞内小器官の研究	17~18
基盤研究C	消化器・総合外科学	助手	小山 文一	放射線性腸炎に対するHGF発現プラスミド・キトサン複合体を用いた遺伝子治療の開発	17~18
基盤研究C	整形外科	講師	田中 康仁	再生医療技術を応用した殺細胞処理骨の再活性化に関する実験的研究	17~20
基盤研究C	麻酔科学	講師	川口 昌彦	脊髄虚血モデルにおける灰白質及び白質障害の長期的評価	17~20
基盤研究C	泌尿器科学	助手	田中 基幹	PTEN-Aktシグナル伝達系を標的にした、前立腺癌の分子治療戦略	17~18
基盤研究C	消化器・総合外科学	助教授	金廣 裕道	抗血管新生療法による小腸慢性拒絶反応および虚血再灌流障害の制御	17~18
基盤研究C	口腔外科学	助手	藤本 昌紀	増殖再生因子添加骨代用材による骨再生に関する実験的研究	17~18
基盤研究C	口腔外科学	講師	川上 哲司	伸展ストレスによる顎関節滑膜細胞の応答とその制御	17~18
基盤研究C	口腔外科学	講師	川上 正良	顎顔面形態のパターン形成に関する分子機構の解析	17~18
萌芽研究	細菌学	教授	喜多 英二	病原体の上皮細胞接着に対する初期応答が感染感受性を規定する	15~17
萌芽研究	第二生理学	教授	高木 都	胚性幹細胞からつくる腸管に壁内神経系をつくる	16~17
萌芽研究	第一生理学	教授	山下 勝幸	小胞体膜電位の光学的測定による細胞内膜系イオンチャネルの機能解析	16~17
萌芽研究	第二内科学	助手	友田 恒一	肺気腫病態解明への新たなアプローチ: コラーゲン線維配列の定量的測定法を用いて	16~17
萌芽研究	生物学	講師	高橋 昭久	ハイパーサーミアによるヒストンH2AXのリン酸化機構の解明	16~17
萌芽研究	寄生虫学	助教授	吉川 正英	ES細胞由来神経幹細胞の脳室内投与療法の開発-脳出血モデルでの検討-	16~17
萌芽研究	寄生虫学	教授	石坂 重昭	導入遺伝子制御によるES細胞から有毛細胞への分化誘導メカニズムの解明	16~17
萌芽研究	耳鼻咽喉科学	教授	細井 裕司	喉頭摘出者のためのサイレント音声入力装置の開発に関する研究	16~17
萌芽研究	第一内科学	教授	斎藤 能彦	雌特有の心血管臓器保護機構の解明-マウス心破裂モデルを用いた検討-	17
萌芽研究	第二内科学	教授	木村 弘	肺高血圧ラットモデルにおけるグレリンの抗炎症作用に関する検討	17~18
萌芽研究	寄生虫学	非常勤講師	木本 誠	胚性幹細胞工学技術を用いた肺再生	17~18
若手研究B	生化学	助手	太田 克矢	成熟脳における新しい細胞死抑制機構の解析	16~18
若手研究B	病理病態学	助手	石田 英和	神経膠腫における癌関連遺伝子のエピジェネティックな転写制御に関する研究	16~17
若手研究B	病理病態学	助手	島田 啓司	前立腺癌におけるリン酸化FADDを介した新規アポトーシスメカニズムの解析	16~17
若手研究B	第一内科学	助手	川田 啓之	急性心筋梗塞モデルでeNOSを介する虚血領域縮小効果-分子学的機序の解明-	16~17
若手研究B	放射線医学	助手	穴井 洋	経皮的ラジオ波凝固療法用細径電極針の開発と凝固範囲拡大に関する基礎的研究	16~17
若手研究B	消化器・総合外科学	医員	上野 正嗣	造血幹細胞を用いた悪性腫瘍腹腔播種に対する治療の開発	16~17
若手研究B	胸部・心血管外科学	助手	高濱 誠	抗Angiotensin抗体の作成と非小細胞肺癌における臨床応用に関する研究	16~17
若手研究B	耳鼻咽喉科学	助手	西村 忠己	骨導超音波の知覚メカニズムの解明とその臨床応用について	16~18
若手研究B	耳鼻咽喉科学	助手	阪口 剛史	超音波補聴器実用化のための伝音効率向上に関する研究	16~18
若手研究B	寄生虫学	助手	王寺 幸輝	免疫活性を利用した発毛再生とそのメカニズムの解明	16~17
若手研究B	神経内科学	助手	杉江 和馬	自己食空胞性ミオパチーの病態・空胞形成解明と疾患概念確立に向けた病理学的研究	17~18
若手研究B	第二解剖学	助手	眞部 孝幸	前脳基底部アセチルコリン神経とLhxファミリー-分子メカニズムの解明とその応用-	17~19
若手研究B	第一内科学	医員	久保 篤史	胚性幹細胞におけるHEXによる幹細胞への分化誘導と機能解析	17~18
若手研究B	法医学	助手	工藤 利彩	新規神経由来過分極因子(NDHF)を介する血管弛緩反応に対するエタノールの影響	17~18
若手研究B	第一内科学	医員	竹田 征治	NRSF系を利用した骨髄細胞のペースメーカー細胞への分化誘導法の開発	17~18
若手研究B	放射線腫瘍医学	医員	浅川 勇雄	化学シャペロンによる放射線抗腫瘍増感効果の検討	17~18
若手研究B	消化器・総合外科学	医員	山田 高嗣	骨髄幹細胞の肝細胞分化誘導における微小重力環境の影響	17~18
若手研究B	胸部・心血管外科学	助手	田村 大和	重症心不全治療の評価-大型放射線X線解析法(Spring-8)を用いて	17~18
若手研究B	泌尿器科学	博士研究員	平尾 周也	PTEN transgenic mouseを用いた前立腺癌治療モデルの確立	17~18
若手研究B	法医学	博士研究員	下嶋 典子	HLA-E、-F、-G分子の不産生、中毒症発症への関与について	17~18
若手研究B	眼科学	助手	丸岡 真治	トリ初期胚を用いたマウスES細胞の神経網膜細胞へのin ovo分化誘導	17~18
若手研究B	第一生理学	助手	杉岡 美保	塩基性線維芽細胞成長因子による網膜神経節細胞の分化制御-転写因子の関与-	17~18
若手研究B	口腔外科学	助手	今井 裕一郎	口腔癌に対するシャペロン治療の化学・放射線・温熱療法への応用に関する基礎的研究	17~18

\* 科学研究費補助金は、研究者の自由な発想に基づく研究を対象とした競争的研究資金ですが、その財源はすべて国民の税金です。研究遂行のため、適正かつより有効に活用されますようお願いいたします。





# 第12回 中島 佐一 学術研究奨励賞授賞式 及び受賞講演会を開催

(総務課)

去る5月16日、臨床第一講義室において中島賞の授賞式を執り行いました。

生物学教室の高橋 昭久講師、消化器・総合外科学講座の庄 雅之助手、整形外科学講座の熊井 司助手の3名の受賞者に、吉田 修学長から賞状と研究奨励金30万円が授与され、故中島 佐一先生のご遺族代理人である増谷 倅氏から記念の楯が手渡されました。

引き続き行われた受賞講演会で、高橋講師は『がん細胞の温熱に対する耐性獲得機構の解明』、庄助手は『臓器移植における血管新生を標的とした新たな免疫制御法の開発』、熊井助手は『腱・靭帯骨付着部の構造学的特徴の解析およびその損傷と修復・再生に関する研究』の受賞テーマで各々講演をされました。

今回初めての試みで受賞講演会を開催することになりましたが、これは、学内関係者にこの賞の趣旨を広く知っていただくとともに、医学の学術研究の発展への一層の覇気にしたいという思いがあります。

例年、応募要項を各所属に通知し、この紙面を通じて案内していますので、若手教員の方々の一層のご応募をお待ちしています。



※後列：左より推薦者の高倉教授、中島教授、大西教授  
前列：熊井助手、庄助手、増谷氏、吉田学長、高橋講師

## チェンマイ大学との交流報告

(学務課)

今回で第6回目となるチェンマイ大学への学生の派遣が平成17年3月27日から4月5日の日程で実施されました。派遣された学生は、2年生から5年生の11名であり、第一解剖学の東野教授に引率され、現地での研修、学生との交流、そして古都チェンマイとバンコクの観光と充実した日々を過ごしました。

参加した学生からは、「チェンマイ大学の方々はとても友好的で明るく、本当に楽しい時間を過ごすことができました」との声が寄せられました。

なお、今年度についても9月に説明会を実施し、参加学生の募集を行う予定です。



チェンマイ大学の学生とともに



# 就任あいさつ

産婦人科学講座 教授 小林 浩

昭和55年に浜松医科大学を一期生として卒業し、同附属病院産婦人科研修医、昭和62年に医学博士の学位を授与されました。浜松北病院勤務後ドイツミュンヘン科学技術大学にリサーチフェローとして留学し、平成8年浜松医科大学医学部附属病院産婦人科講師、平成15年同助教授後、平成17年6月1日付で奈良県立医科大学産婦人科に赴任させていただくことになりました。



現在、産婦人科医療は医師不足、高齢化、医療訴訟、生殖倫理の問題等多くの難問を抱えております。若手医師が働きやすく、産婦人科診療を研修できる環境を整備することが私に与えられた使命であると考えますので、医局の先生や関連施設の先生方ならびに同門の諸先生の意見を取り入れて、新たな航路を見出すよう努力させていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 7月30日(土) オープンキャンパス実施 (学務課)

### ～ボランティア募集～

前年度に引き続き、今年度も夏休み中にオープンキャンパスを実施します。実施内容は、下表のとおりです。なるべく多くの方が参加されるよう、お知り合いに医学・看護に興味、関心を持っている高校生・受験生の方がおられたら教えてあげてください。

また、主な対象は、高校生及び受験生ですが、地域に貢献する県立大学という本学の性格上、対象者を限定しておりませんので、どなたでも参加することができます。

今年度も医学科・看護学科合同で実施しますので、多数の参加者が見込まれます。

については、在学生の方で当日の受付、施設見学及び個別相談を手伝ってもらえる方を募集しています。ボランティアの受付は、学務課厚生・入試係で行っています。

関係者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

時間	実施内容
12:30～13:00	受付・施設見学申込み
13:00～13:50	講演会『いま、医療に求められているもの』学長 吉田 修
13:50～14:05	会場移動 ※医学科と看護学科で会場が別になります
14:05～14:15	学科紹介 医学科：吉原医学科長 看護学科：伊藤看護学科長
14:15～15:00	在学生から受験生へのメッセージ
15:00～15:10	休憩
15:10～15:40	模擬ミニ講義 医学科 『あなたにとってかけがえのない心臓について迫ろう！』 第二生理学教授 高木 都 看護学科 『看護師の仕事』 小児看護学教授 江上 芳子
15:40～17:10	施設見学 附属病院・総合研究棟・基礎医学校舎・看護学科校舎等を見学
15:40～17:30	個別相談 入試・教務・厚生コーナー 教員による相談コーナー 在学生による相談コーナー





# Report

本学の独立行政法人化の準備のための事務局として、4月1日付で県の医大・病院課に独立行政法人係が、医大総務課内に法人化準備室が新設されました。

また、学内では教職員により組織された法人化準備委員会及び5つの専門部会が設置され、法人化に向けての検討が進められることになりました。

吉田学長の任期(4年間)が本年9月末であることから、選考委員会が設置され、学長選考がスタートしました。

なお、4月から6月の将来計画委員会及び教授会での主な提案議題等の内容は次のとおりです。

(総務課)

## 将来計画委員会

〈4月7日開催〉

### 独立行政法人化の準備体制について

3月の将来計画委員会で設置について検討した「法人化準備委員会」の委員の構成を、学長、教授8名(一般1名、基礎2名、臨床4名、看護1名を各協議会から推薦)、附属病院職員4名(看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部技師長、中央放射線部技師長)、事務局長、その他学長が指名する者とする事について検討[4月の教授会に提案、承認]

### 任期制教員の再任手続きの見直し等について

先端医学研究機構に新しく設置された研究単位「生命システム医科学分野」へ任期制を導入することが2月の教授会で承認されたことを受け、任期3年の教員の再任審査の手続きを付け加える等の「任期を定めて任用する教員の再任審査手続きに関する規程」の一部改正案について意見聴取を実施

〈4月28日開催〉

### 経営改善計画について

4月の附属病院運営協議会で内容確認を願った「医科大学・附属病院の経営改善計画」の改訂について、改訂を行う経緯及び改訂内容の説明を行った後、意見聴取[5月の教授会で意見聴取を行い、6月の教授会に提案]

### 再任手続きに関する規程の改正について

前2回の将来計画委員会で、任期制教員の再任手続きに関して検討を行った結果を受け、取りまとめた再任手続きに関する規程の改正案について検討[5月の医学科教授会議に提案、承認後法規委員会に付託]

### 公衆衛生学講座のあり方に係る検討状況について

昨年9月の将来計画委員会で「公衆衛生学講座のあり方検討委員会」に依頼していた本学の今後の公衆衛生学講座のあり方について、吉原検討委員長から検討案の説明を願い、意見聴取を行った結果、検討委員会に対し同講座のあり方についての更なる検討を依頼[5月の医学科教授会議に検討状況を報告]

〈6月9日開催〉

### 公衆衛生学講座のあり方検討委員会の今後の進め方について

あり方検討委員会において、今後、講座のあり方について更なる検討を進めていくために必要となる同講座の基本的部分の方向付けを検討

### 教授選考規程の改正等について

現在、医学科における教授選考に関して規定している教授選考規程について、看護学科の教授選考について規定する必要があることから、現規程を「医学科教授選考に関する規程」に改正するとともに、「看護学科教授選考に関する規程」を制定することとし、両規程の内容について検討[6月の教授会に提案、審議を法規委員会に付託]

## 教授会・学科教授会議

### 看護学科教授会議

[5月10日承認]

#### 看護学科学学生の既修得単位の認定について

平成17年度対象分として、1学年4名、2学年5名の既修得単位の認定について承認

[6月14日承認]

#### 平成18年度看護学科第3年次編入学選抜試験の合格者及び追加合格者の決定方法について

8月31日に実施される本学看護学科設置後はじめてとなる3年次編入学試験について、伊藤看護学科長から合格者及び追加合格者の決定の方法について説明の後、承認

[6月14日報告]

#### 看護学科学務委員会カリキュラム部会委員の選任について(任期:平成18年3月31日)

成人看護学 講師 杉崎 一美

### 医学科教授会議

[4月12日承認]

#### 産婦人科学講座教授候補者の選考について

3月の教授会議で承認を得た3名の教授候補者について投票を行った結果、小林 浩 氏(別途就任挨拶を掲載)を教授候補者に決定(知事あて内申を行い、6月1日付けで就任)

[5月10日報告]

#### 医科学学生の既修得単位の認定について

平成17年度対象分として、1学年5名の既修得単位の認定について承認

[5月10日報告]

#### ラジオアイトープ委員会委員の選任について(任期:平成17年12月25日)

放射線腫瘍医学講座 教授 長谷川 正俊

#### 研究用コンピュータネットワーク運営委員会委員の選任について(任期:2年)

衛生学講座 教授 車谷 典男

内科学第三講座 教授 福井 博

泌尿器科学講座 教授 平尾 佳彦

中央臨床検査部 教授 岡本 康幸

統計・情報学 助教授 林田 秀宜

[6月14日承認]

#### 任期を定めて任用する教員の再任手続きに関する規程の一部改正(法規委員会の審議結果)について

5月の教授会議で承認された後、法規委員会に審議を付託された同規程の一部改正について、車谷法規委員長から法規委員会での審議結果の報告を受けた後、本日(6月14日)付で施行することを承認



〔6月14日報告〕

### 組換えDNA実験安全委員会委員の選任について(任期:2年)

哲	学	教	授	豊田	剛
生	物	学	教	授	大西 武雄
解剖学第二講座	教	授	和中	明生	
衛生学講座	教	授	車谷	典男	
神経内科学講座	教	授	上野	聡	
内科学第一講座	講	師	岩野	正之	
R I 実験施設	助	教	授	森	俊雄
動物実験施設	講	師	久保	薫	

### (全体) 教授会

〔4月12日承認〕

### 外国人教員の任期に関する規程の制定(法規委員会の審議結果)について

「生命システム医科学分野」の教授選考において、優秀な外国人研究者に対しても門戸を広げる必要があることから、3月の教授会で承認を得た後、審議を法規委員会に付託していた同規程の制定について、車谷法規委員長からの法規委員会の審議結果の報告を受け、本日(4月12日)付で施行することを承認

〔5月10日報告〕

### 法人化準備委員会委員の選任等について

4月の教授会で設置が承認された法人化準備委員会について、各教育協議会からの推薦を受けて選任した委員(委員長:学長、副委員長:吉岡教授、別途法人化準備室からの報告に委員名の記載有り)を報告

また、準備委員会で検討した結果、「組織・運営部会」「人事・給与部会」「財務・会計部会」「中期計画部会」「附属病院部会」の5つの部会を設置することになり、各教育協議会や所属に対し部会委員の推薦を依頼していることを報告

〔6月14日承認〕

### 交流施設「厳櫃会館」使用規程の制定(法規委員会の審議結果)について

5月の教授会で同会館の使用規程の制定について承認を得、審議を法規委員会に付託していた同規程の制定について、車谷法規委員長からの法規委員会の審議結果の報告を受け、5月16日にさかのぼって施行することを承認

### 学長選考委員会委員の選任について

各教育協議会に推薦の依頼をしていた教授4名及び教授以外の教員4名(次のとおり)並びに補欠の教授4名及び教授以外の教員4名を学長選考委員会委員及び補欠委員とすることを承認

〔教授〕	化	学	大崎	茂芳
	薬	理	学	吉栖 正典
	眼	科	学	原 嘉昭
	病	態	医	学 飯田 順三

〔教授以外の教員〕

物	理	学	平井	國友
R I 実験室	森	俊雄		
内科学第一	金内	雅夫		
小児看護学	森	ウメ子		

### 経営改善計画の改訂について

5月の教授会で改定内容を説明の後、協議を行った同計画の改訂案について、設定された目標値の内容等に対する意見が出され議論された結果、再度、病院運営協議会で協議願うこととなった

〔6月14日報告〕

### 図書委員会委員の選任について(任期:2年)

英	語	助	教	授	吉田	泰彦	
法	医	学	講	座	教	授 羽竹 勝彦	
精	神	医	学	講	座	教	授 岸本 年史
成	人	看	護	学	教	授 小河 育恵	

〔6月14日報告〕

### 法人化準備委員会からの報告

5月の教授会で、法人化準備委員会に設置することを報告した5つの専門部会について、各部会の部会員の選任について報告するとともに、附属病院部会の部会長に選任された高倉教授を準備委員会委員に加えたことを報告

## 平成17年度前期本学公開講座の開催について

(総務課)

来る9月3日(土)午後1時から、本年度前期の公開講座を榎原文化会館大ホールで開催いたします。なお、講演者等は下記のとおりです。入場は無料ですので、多数の来場をお待ちしております。

記

「増える肺がん - 肺がんでどんな病気? -」	講師: 病理診断学	教授	野々村 昭孝
「痴呆(認知症)の予防と治療」	講師: 精神医学	教授	岸本 年史
「がん - なりやすさ・治りやすさ -」	講師: 生物学	教授	大西 武雄





# 公立大学法人化に向けて ①

## 公立大学法人化に向けての準備作業が始まりました

(総務課 法人化準備室)

### ◆ 公立大学法人化準備委員会及び専門部会の設置

法人化に向けて、公立大学法人化準備委員会（4月27日に第1回委員会開催）とその下部組織として5つの専門部会が設置されました。今後、委員会及び各専門部会をそれぞれ月1回以上開催し、幅広い観点から検討をしていただくこととしています。

#### 公立大学法人化準備委員会

##### 【委員会の構成メンバー】

学 長	吉田 修
化 学 教 授	大崎 茂芳
第 一 解 剖 学 教 授	東野 義之
第 二 生 理 学 教 授	高木 都
第 三 内 科 学 教 授	福井 博
脳 神 経 外 科 学 教 授	榊 壽右
整 形 外 科 学 教 授	高倉 義典
小 児 科 学 教 授	吉岡 章
泌 尿 器 科 学 教 授	平尾 佳彦
成 人 看 護 学 教 授	小河 育恵
中央臨床検査部技師長	丹羽 欣正
中央放射線部技師長	越智 保
薬 剤 部 長	谷奥 正俊
看 護 部 長	渡邊 フサ子
事 務 局 長	松田 光央

#### 組 織 ・ 運 営 部 会

役員、経営・教育研究審議機関など定款に関する事項などの検討

#### 人 事 ・ 給 与 部 会

教職員の雇用形態、採用方法、給与等の支給基準などの検討及び人事・給与システムの構築

#### 財 務 ・ 会 計 部 会

引き継ぎ財産の把握、運営費交付金の交付基準などの検討及び財務・会計システムの構築

#### 中 期 計 画 部 会

平成19年度から6年間の中期目標や目標を達成するため必要な諸施策を盛り込む中期計画の作成などの検討

#### 附 属 病 院 部 会

法人化の利点を活かした附属病院のあり方などの検討

### ◆ 法人化準備室の設置

4月1日付けで総務課法人化準備室が設置され、専任職員4名が配置されました。今後、公立大学法人化に向けての取組みをすすめる上での事務局となります。

### ◆ 地方独立行政法人に関する研修会の開催

3月29日と4月21日の2日間に分けて、大学・病院全職員を対象に地方独立行政法人の基礎的な知識を修得していただくため、研修会を開催しました。この2日間の研修会で延べ510人の方々に参加いただきました。

平成19年4月の公立大学法人化まで2年足らずの短い期間ではありますが、今回の公立大学法人化が10、20年後において本学及び附属病院に対し、学内外から高い評価が得られるものとなるようにしたいと考えています。

なお、法人化準備の進捗状況等については、当紙面への掲載や職員研修会の開催などにより随時、皆さんにお知らせしていく予定です。公立大学法人化がより良きものとなるよう、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 交流施設「<sup>いっかし</sup>厳櫃会館」がオープンしました (管財課)

今年の1月から整備工事を進めてきました本学の交流会館「厳櫃会館」が完成しましたので、その施設の概要を紹介します。

基礎医学学校舎の東側、国道169号沿いにある鉄筋コンクリート造3階建ての建物が「厳櫃会館」です。まず、目につくのが外壁面にある青色の「厳櫃会館」の表示で、これは、世界遺産に登録された金峯山寺(吉野町)の五條順教管領の書をもとに製作したものです。建物の中に入ると、1階には同窓会室、奈良医学雑誌編集室、奈良栗田書店、会議室、2階には研修室、会議室、特別会議室、3階には大ホール(定員100人)、特別会議室、控室があります。

大ホールには、プロジェクター、電動スクリーン、マイク設備等が完備され、研究会や交流会の会場として利用できます。また、2階の特別会議室は、机や椅子のグレードが高く、円卓形式の会議ができるようになっています。研修室は面積が少し広く、多目的な使い方ができます。

会議室、研修室、大ホールでは、原則として飲食はできませんが、研究会や交流会等で食事を提供する必要がある場合は認めることにしています。夕食弁当やパーティ料理は、弘済団で用意することができますので相談してみてください。

使用の申込みは、使用日の前日までに「使用許可申請書」を管財課に提出して使用の許可を受けてください。また、前もって会場を押さえておきたい場合は、予約することもできます。

なお、この「厳櫃会館」は、本学の同窓会の寄付金を財源として整備されたものです。



厳櫃会館 全景



特別会議室 1 (2F)

## 移転しました

(奈良栗田書店)

栗田書店はどこにいったのだろう? . . .

栗田書店をお探しの方はいらっしゃいませんか? 栗田書店は厳櫃会館1Fに移転しました。今までより2倍の大きさに、5倍の明るさに、10倍のキレイさになって6月1日より営業を開始致しております。今までより不便な場所になったと思われる方もいらっしゃるかと思いますが、書籍の充実に珈琲サービスと今まで以上に頑張っておりますので宜しくお願いいたします。

皆様のご来店心よりお待ちしております。

\*営業時間も変更になりました。

月~金 9:00~18:00

土 9:00~15:00

(毎月第1土曜はお休みさせていただきます)





## アセアン諸国青年との国際交流について (総務課)

6月8日、JICAの国際交流事業の一環として、アセアン諸国から看護教育担当行政官及び看護学校教員(8カ国、26名)が来学し、本学看護学科及び看護短期大学部の教員・学生との交流会が行われました。

交流会は、厳櫃会館の3F大ホールで開催され、最初に、伊藤看護学科長がプロジェクターを用いて本学の看護学科の概要を説明し、続いて、グループに分かれての交流を行いました。その後、看護学校舎の施設や授業の見学、看護部による附属病院の施設案内が行われました。

交流会に参加した学生の中には、ホストファミリーとしてホームステイの受け入れを行ったり、交流生とメールアドレスを交換するなど、終始和やかな中にも、語学力の必要性を痛感するなど、色々な刺激を受け、国際化に向けての動機付けとなったとの意見が多く聞かれました。

この交流会は、厳櫃会館大ホールを用いてのはじめてのイベントとなりました。空調は快適で、照明の調整や電動カーテン、電動スクリーンなど、設備が充実しており、何と言っても、机と椅子の移動が軽く、会場設営が楽にできました。

また、弘済団から冷たい飲物の出前をしてもらい、視察で歩き回った交流生ののどを潤すことができ大変好評でした。



グループに分れての交流



看護学科の概要説明

## 国家試験結果

(学務課)

去る3月30日、厚生労働省により第99回医師国家試験(2月19~21日実施)の合格者が発表されました。今回の試験結果は下表のとおりです。

### 第99回医師国家試験

本学医学部医学科				平均合格率			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国	国立	公立	私立
新卒	85	81	95.3	93.3	93.9	95.4	92.2
既卒	12	8	66.7	55.8	55.8	62	56.1
計	97	89	91.8	89.1	90.4	93	87.1

看護師(2月27日実施)、助産師(2月25日実施)国家試験の合格者が3月29日に発表されました。試験結果は下表のとおりです。

### 第94回看護師国家試験・第88回助産師国家試験

本学短期大学部H17年3月卒業				平均合格率(新卒のみ)			
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	全国	大学	短大	専門学校
看護師	78	74	94.9	96.1	97.7	94.8	95.9
助産師	15	15	100.0	99.9	100.0	99.8	100.0

### 下ツ道 (編集後記)

本号は実に多彩な内容となりました。大学で、病院で、今、さまざまな動きがあり、それらをお伝えできれば幸いです。開学60周年記念講演の中で「柿の種」のお話がありました。種を蒔き、木を育てる過程に意を注ごうとしない風潮は、明治以来指摘されてきた日本の医学の一面でもあります。実った果実だけを手に入れようとすれば失うものが大きい、ということに思いを馳せるお話でした。

○山下 勝幸(生理学 第一)  
吉田 泰彦(英 語)  
水野 文子(細菌 学)  
吉田 克法(透 析 部)  
小林 雅子(看 護 部)  
上田 恵子(母性看護・助産学)  
岡田 高男(病 院 管 理 課)  
芳倉 亮(学 務 課)  
大門 喜信(総 務 課)  
山本 徳子(総務課研究支援室)  
(○印は委員長)